



道

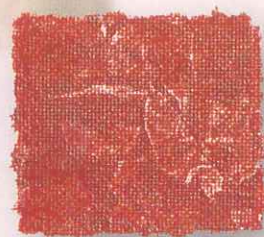
みちもり

MICHIMORI  
TSUSHIN

通信

vol.13 春号

守



**特集 日本風景街道**

「九州風景街道」本格始動

ルート代表者会議、推進会議が発足

**道守の輪**

道守九州会議 4年目へ

活動・連携・論議、広がる道守の輪

**交響の道をいく・新街道風景**

唐津・虹の松原と松の道

大切な人たちが作ってくれた道

辛島 美登里

## 道守九州会議 設立趣旨

古代から、道は人々の共有財産であった。力を合わせ道普請し、守ってきた。道は街を作り、産業を興し、文化を運び、人々を結びつけた。つい、この間まで、子どもたちがキャッチボールし、縄跳びなどで、明るい歓声が響いていた。お年寄りも、縁台で将棋をさし、ほうきで道を掃き、水を撒くお母さんの姿もあった。そんな「日本の原風景」は何処へ行ったのだろうか。

確かに、高速道路やバイパスなど、道は整備され、日本の高度経済成長を支え、豊かな暮らしをもたらした。しかし、多発する事故、渋滞、大気汚染、騒音。何より、車優先社会は、人々の心を道から遠ざけてしまった。自宅前のごみや雑草さえ知らん顔。それどころか、空き缶のポイ捨て、家庭ごみの投げ捨てが日常的な風景になってしまった。

そんな現状に、心を痛め、清掃や花壇作り、植樹に取り組み人々が増えている。行政まかせから、「道はみんなの財産」という意識と行動。新しい「公」への動きが芽を出しているのだ。行政と住民が手を携え「協働」で道を守るという新しい意識の潮流。そこから生まれた九州各地の活動が、合流し、大きな流れになってゆく。「道守九州会議」の誕生だ。

道守。その由来は遠く万葉の昔にさかのぼる。道を管理し、守り、旅人の飢えと渴きを癒す果樹を沿道に植えたという。現代の道守は住民と行政が協働し「道と人の新しい縁」を紡ぐ。  
さあ、新しい道に一步踏み出そう。



## CONTENTS

- 01 巻頭随想  
「大切な人たちが作ってくれた道」  
辛島 美登里
- 02 日本風景街道  
「九州風景街道」本格始動  
ルート代表者会議、推進会議が発足
- 06 道守の輪  
道守九州会議 4年目へ  
活動・連携・論議、広がる道守の輪
- 08 わたしの好きな道  
アイデアの花開く「はなみずき通り」  
三原 ユキ江
- 09 私たちの道守活動
- 12 交響の道をいく・新街道風景  
唐津・虹の松原と松の道
- 14 海外道事情【ブラジル】  
歩行者専用道路は、幅40メートル！  
「人間中心の計画都市」クリチバ市
- 15 ご存知ですか？  
九州エリア限定「道路の走りやすさナビ」  
WEB版を公開
- 16 道守たちのトピックス／人物伝
- 17 道守九州会議会員募集中／お知らせ

表紙画：久富 正美 1935年福岡県生まれ。「小さい旗」同人。グループ「五架会」会員。



### 大切な人たちが 作ってくれた道

# 辛島 美登里

KARASHIMA M IDORI  
美登里

(シンガー・ソングライター)

音楽の道に進みたいと思ったのは、大学在学中に「ポプコン」(第26回・1983年)のグランプリ受賞がきっかけ。鹿児島出身で、父は公務員。普通に結婚して家庭を持つだろうと思っただけ。それが、傍目にはチャラチャラした道へ。私は親が親戚から何と言われようと、そればかりを心配した。この道に進む人たちは「自分には音

楽しかない」という人がほとんどだが、実は私はそうでもなかった。今は、これは私の個性だと思って受け入れている。あるとき「結婚したら音楽の仕事やめたいな」と友人に話したら、「何を言ってるの？」と本気で怒られた。もちろん音楽は好きだし、できればこの道で一生を送りたいな、なんて思うのだが。

そもそも私は、道を自分で切り開いたと思っていない。「ここでぐずぐずしていたら」と思っていたら、誰かが「辛島さん、こっち、こっち」と次の道を作ってくれる。永井真理子さんへの楽曲提供も、NHKの「ラスト・ラブ」への出演も、クリスマスのオーケストラ共演もそう。イメージとしては、いつも道の先にお花畑があつて、そこへ着くとまたその先のお花畑に続く道がある、という感じ。

人にはタイプがあるのだ。フロントエア精神旺盛な人と、私のように作ってもらった道を喜んで走って行く人。今いる場所で、楽しく誠実にしていることが大事なのかもしれない。実際の道でも、まず道を作る人たちがいて、後で花を植えて道を心地よくする人たちがいるように。

デビュー前に住んでいた東京・門前仲町(東京都江東区)は、ドラマのよくできたセットのような下町だった。宝石屋さんのアルバイトで、下町の人と人とのつながりや優しさに支えられ

ながら過ごした。ただ、音楽の芽がなかなか出ない時期で、仕事が終わると家に帰って曲作りばかりしていた。

今でも顔見知りの人たちがそのまま住んでいるので、少し気恥ずかしいけれど、ここ2、3年はちよくちよく門前仲町へ戻るようになった。当時は気がつかなかった町の姿も覚えてきた。市がしょっちゅう立ち、骨董市や何かお祭りめいた行事がたくさんある。春の桜祭りには、三味線や唄い手の人が隅田川に舟で繰り出したり、節分にはお相撲さんが豆まきをしたり。この町が好きだから、自分たちでちゃんとしよう、たくさんの人たちで賑わってもらおう、という町の人々の想いが伝わってくる。

九州の道守さんの活動を知って、町に住みつくことは大事なことだな、とふと思っただ。大切な人たちと大切なものを守りながら、長く暮らしてゆく。そんな生き方に、憧れますね。

プロフィール  
1961年鹿児島市生まれ。国立奈良女子大学卒業後、ソング・ライティングの勉強を経て、音楽作家としての活動を始める。永井真理子をはじめ、多くのシンガーに楽曲を提供。その後、アーティストデビュー。「サイレント・イヴ」など恋愛をテーマとした名曲を数多く生み出している。



特集 日本風景街道

「九州風景街道」本格始動

# 九州風景街道ルート代表者会議、九州風景街道推進会議が発足

## キックオフシンポ開催 「道」を通じて地域交流と活性化を探る

九州の「日本風景街道」を推進する2つの組織が3月7日、発足した。引き続き同日、「九州風景街道キックオフシンポジウム」(九州風景街道推進会議、九州地方整備局主催)を福岡市で開催。九州の8つのモデルルートの関係者や道守会員、企業、行政の代表者ら約350人が集まった。

情報共有と連携で九州風景街道を推進

今回、発足したのは「九州風景街道ルート代表者会議」と、その活動を支援する「九州風景街道推進会議」。今後は2つの組織が協働し、九州での日本風景街道の本格化に向け、さまざまな形で連携を進めていく。

「九州風景街道ルート代表者会議」は各ルートで行われるワークショップや勉強会などをもとに、ルート間での情報交換や共有、連携と交流を促進する。ルート代表者会議の構成は次の通り。九州風景街道ルート代表者会議

△唐津街道原町/時安正明、垣田昭文  
△(仮称)北九州おもてなしの「ゆくく」  
りかいどう/井上智明、水口鉄昭  
△日豊海岸シーニック・バイウェイ(蒲江・北浦大漁海道) / 橋本正恵、富高かをる  
△日南海岸きらめきライン/和時皓、長友治  
△阿蘇くじゅう・やまなみシーニック・バイウェイ/久恒雄一郎、中村幸子  
△(仮称)玄界灘風景街道/竹内御木夫、田浦晃幹  
△ながさきサンセット・オーシャンロード/田中勉、原野大輔  
△錦江湾あつたまる〜と/福島大輔、下津公一(敬称略)

一方、「九州風景街道推進会議」(会長 明石博義・九州経済連合会副会長)は、昨年2月に発足した「シーニック・バイウェイ九州戦略会議(準備会)」の流れを受ける。ルート代表者会議をはじめ、九州風景街道の取り組み全体を支援する推進母体としての役割を持つ。推進会議の構成メンバーは次の通り。

△青山佳世・フリーアナウンサー  
△明石博義(社)九州経済連合会副会長  
△池永正人・長崎国際大学国際観光学教授  
△植村敏満(社)日本青年会議所九州地区協議会会長  
△大江英夫・九州観光推進機構事業本部副部長  
△古賀武司(社)九州経済連合会専務理事  
△白石道雄(道)向上会議議長  
△玉川孝道・西日本新聞社取締役副社長  
△榎木武・九州大学名誉教授  
△橋本流・九州商工会議所連合会常任幹事  
△東島治男(社)日本広告写真家協会九州支部長  
△三浦隆明(株)ゼンリン社長室福岡放送局長  
△森持彦・道守九州会議事務局長  
△山本泰広(株)リクルー下九州じゃらん編集部編集長  
△小原恒平・九州地方整備局局長  
△吉崎収・九州地方整備局道路部長(敬称略)



九州風景街道推進会議

九州風景街道の推進体制

九州風景街道推進会議

- ◎基本方針の策定
- ◎支援施策の企画・立案・実施
- ◎各ルートへの助言等

九州風景街道ルート代表者会議

- 九州応募8ルート +...
- ◎日本風景街道の情報収集・共有化
- ◎各ルートの情報収集・共有化
- ◎各ルートの連携・交流促進等

日本風景街道

美しい街道空間づくりと訪れる人々の交流から、地域の再生を図る。地域住民、企業NPO、行政などが一体となり、沿道景観や自然環境の保全・整備に取り組み活動。2005年12月に「日本風景街道戦略会議」が発足。公募により設定されたモデルルートは全国で72。九州からは8ルートの応募があった。その後、沖縄などからさらに3ルートが名乗りを上げ、活動を開始している。



日本風景街道ホームページ  
http://www.hido.or.jp/fukeikaidou/

1 唐津街道原町



唐津街道原町の街並み

時安正明さん  
宗像市を通る旧唐津街道に、古い造り酒屋や呉服屋、骨董店、美術・工芸ギャラリーなど10軒ほどが並ぶ、昔の町並みがよみがえりました。住宅修景などの景観づくりにも取り組んでいます。ぜひ、散策を楽しんでください。



2 (仮称)北九州おもてなしの「ゆくく」



曲松の松並木

井上智明さん  
レトロな街並みが残る北九州市。門司から、宿場町、木屋瀬までの旧長崎街道を軸に、20の市民団体が一つになって、ゆとり歩きとなる街を再生していきます。街道ウォークなど道を楽しみイベントも盛んです。



3 日豊海岸シーニック・バイウェイ(蒲江・北浦大漁海道)



ブルーツーリズムが盛んな日豊海岸

橋本正恵さん  
国道388号が走る大分・蒲江と宮崎・北浦の住民が手をつなぎました。ヒラメやモジャコ(ブリの稚魚)の養殖では日本一。ほかにもたくさんさんの日本一や特産品がある蒲江・北浦を見に来てください。



4 日南海岸きらめきライン



日南海岸ロードパーク

和田皓さん  
道づくり、地域づくりに取り組んでいる38グループが集まって、日南海岸きらめきラインを作りました。地元の神話などを話したり、散策の道を整備して、「また来たい」といわれる地域にしていきたいです。



5 阿蘇くじゅう・やまなみシーニック・バイウェイ



阿蘇の米塚

久恒雄一郎さん  
緑の草原と雄大な山々、湯布院や別府などの温泉群。多彩な景観をさらに美しくして来訪者を迎えるとともに、車を止めて寄り道したくなるようなスローツーリズムを目指しています。阿蘇の景観保全プログラムなどを実施したいと考えています。



6 (仮称)玄界灘風景街道



虹の松原

竹内御木夫さん  
福岡の都市型観光から白砂青松の自然を楽しむ唐津へ多彩な魅力でおもてなし。祭りも福岡の山笠と唐津くんちがある。より強いパートナーシップを発揮して、九州の西海岸をより魅力アップしていきます。



7 ながさきサンセット・オーシャンロード



九十九島の夕日

原野大輔さん  
平戸から長崎市まで、九州の西端を南北に縦断。となく長いルートなので、地域の交流から活動を始めています。十九島や長崎湾に沈む夕日の絶景、古い歴史を持つ教会群の異国情緒を楽しんでください。



8 錦江湾あつたまる〜と



鹿児島島のシンボル・桜島

福島大輔さん  
錦江湾にそびえる桜島をぐるりと囲むルートです。気候のあたたかさ、温泉のあたたかさ、地域の人たちのおもてなしの心のあたたかさ。いろいろな鹿児島を「あたたかさ」でお迎えしようと呼びかけています。



九州風景街道キックオフシンポジウム  
パネルディスカッション「九州における風景街道の展開に向けて」

# 美しい九州づくりへ

九州風景街道推進会議の初活動となった「九州風景街道キックオフシンポジウム 九州における風景街道の展開に向けて」。パネル討論では、パネリストと8ルートの代表者らが意見を出し合い、美しい九州づくりに向けた連携の仕組みや、観光の在り方などを考えた。



パネリスト  
青山佳世氏  
フリーアナウンサー  
大江英夫氏  
九州観光推進機構事業本部副本部長  
WELCOME 天神協議会理事長  
陶山秀昭氏  
WELCOME 天神協議会理事長  
榎木 武氏  
九州大学名誉教授、  
道守九州会議代表世話人  
中村良夫氏  
東京工業大学名誉教授  
森将彦氏  
道守九州会議事務局長  
コーディネーター  
玉川孝道  
道守九州会議副代表世話人、  
西日本新聞社取締役副社長

## 地域交流と観光 九州風景街道を軸に

——(玉川)九州風景街道推進会議とルート代表者会議の2つの組織が全国に先駆けて発足した背景、日本風景街道の九州8ルートと道路文化の新しい形を具体的に考えたい。  
榎木 背景は3つある。超高齢社会での過去に築き上げてきた

地域文化、伝統の維持・継承のあり方だ。廃村や集落消滅が懸念される中で、九州内で人の行き来が繰り返される交流社会の構築が必要だ。2つ目は、地域住民の意識が変わってきたこと。新しい社会を形成する意識が芽生え、地域に貢献する人たちが増えた。3つ目は、旅の質の変化。夕日の美しさに感動する人、スポーツ観戦に行く人など、旅人の価値観が多様化している。新しい旅のスタイルを確立すれば、交流社会の実現に結びつけることができる。そのため一つの施策が風景街道だろう。

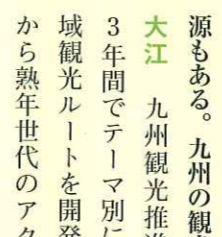
見ても感動を味わう。九州の農山漁村の過疎化を目にし、人々が暮らしながら山、田畑、海の手入れをしていかなないと、美しい風景は守れないと感じた。農山漁村と都市に住む人々をグリーンツーリズムやエコツーリズムという新たな旅の形で結びたい。風景街道のコンセプトなら、農山漁村の魅力や暮らしを観光に繋げることができるのでは。——過疎化の一方で、豊富な資源もある。九州の観光価値とは？

アが旅行を始める。九州は歴史文化の宝庫で風景街道にふさわしい。体験型で知的好奇心を満足させる旅を、関東・関西に発信していきたい。

九州は歴史文化の宝庫で風景街道にふさわしい。体験型で知的好奇心を満足させる旅を、関東・関西に発信していきたい。



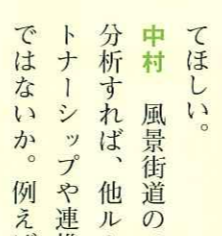
榎木 武氏  
(財)福岡アジア都市九州務研九州九道の計  
研究所代表世話人、道守九州会議代表世話人、道守九州会議代表世話人、道守九州会議代表世話人、道守九州会議代表世話人



大江英夫氏  
元JTBインターナショナル副社長、九州観光の魅力  
社長、九州観光の魅力  
社長、九州観光の魅力  
社長、九州観光の魅力



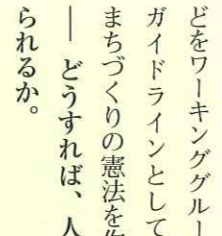
中村良夫氏  
元JTBインターナショナル副社長、九州観光の魅力  
社長、九州観光の魅力  
社長、九州観光の魅力



森将彦氏  
(社)九州地方計画協会の  
副理事長、道守九州  
副理事長、道守九州  
副理事長、道守九州



中村良夫氏  
東京工業大学教授、京現  
東大工学部教授、京現  
東大工学部教授、京現  
東大工学部教授、京現



榎木 武氏  
(財)福岡アジア都市九州務研九州九道の計  
研究所代表世話人、道守九州会議代表世話人、道守九州会議代表世話人、道守九州会議代表世話人



森将彦氏  
(社)九州地方計画協会の  
副理事長、道守九州  
副理事長、道守九州  
副理事長、道守九州

若狭湾につながる「若狭熊川・鯖街道」には多くの脇道がある。そう考えると楽しい作業になるのではないかと思う。

青山 メンテナンススやリニューアルが無ければ魅力を感じない。温泉地も同じ。例えば別府は観光客にまち歩きをさせ、指宿は砂蒸し温泉をリニューアルして、若い女性が大勢訪れるようになる

た。都会も田舎も古いものに入手を入れることで、人を呼び寄せられる可能性がある。

——主体は民。道守活動のような官民協働をどう育てていくか。

カギ。推進会議の支援も生きてくると思う。官にも地域に負けない熱意のある人をおいてほしい。

美しい風景、官民協働で道守も協力  
——福岡の都市型シーニック目を向けてみたい。



陶山秀昭氏  
西日本鉄道専務、事業  
西日本鉄道専務、事業  
西日本鉄道専務、事業  
西日本鉄道専務、事業

和泉浩 (日南海岸きらめきライン) 最近の宮崎にはスポーツ関係者や

——日韓風景街道の構想もある。

榎木 九州のアジアとの近接性を活かしたい。韓国、中国、台湾環黄海を巡る国際ルートの可能性もある。第一歩として精神的にも文化的にも共通のプラットフォームを持つ韓国との連携を模索している。九州の風景街道に

アアジアからの観光客が増えた。一方で、交通渋滞や自転車の不法駐輪、都市景観悪化など様々な都市問題が露呈した。都市機能

置いたり、通りに名前を付けたたりして、道を中心にした福岡の魅力づくりを進めている。またマイカーと公共交通の共存、人と自転車の共存な

道は「国土文化の編集装置」  
基調講演「風景街道と地域文化」  
中村良夫氏 (東京工業大学名誉教授、日本風景街道戦略会議副委員長)

作り出すのも道路の役割。ある地域には美しい森や山々、川などの清流文化があり、隣町には温泉文化がある。そこに道をつなぐと、美しく楽しいルートが形成され、人や車が往来し、観光が盛んになって、地域が活発化していく。このように、道路は地域の新たな魅力を引き出す「国土文化の編集装置」でもあるのです。

しかし、ガードレールや看板が目立つ現在の道路を、魅力あふれる道の風景に変えていくには、地域と地域、地域と企業、行政が連携し幅広いパートナーシップで継続的に運営していくことが必要です。そのためには、参加する全員が、地域を良くする熱い気持ちを共有することが大事。



熱心に耳を傾ける参加者

置いたり、通りに名前を付けたたりして、道を中心にした福岡の魅力づくりを進めている。またマイカーと公共交通の共存、人と自転車の共存な

各地域それぞれに根付いた11の文化をつなぎ合わせ、個性を

各地域それぞれに根付いた11の文化をつなぎ合わせ、個性を

九州では早くも連携と支援のためのルート代表者会議と推進会議が誕生しました。九州の皆さんの強固なパートナーシップによる風景街道づくりに期待します。

九州では早くも連携と支援のためのルート代表者会議と推進会議が誕生しました。九州の皆さんの強固なパートナーシップによる風景街道づくりに期待します。

# 道守九州会議 4年目へ 活動・連携・論議、広がる道守の輪

### 道守九州会議運営会議 各県世話人が一堂に 「みちづくし in 福岡」開催方針決定 道守花壇、マイツリーに注目集まる

道守九州会議の運営会議（平成18年度第3回）が2月7日、福岡市内で開かれ、道守九州会議世話人や行政関係者ら約40人が集まり討議を行った。

道守九州会議の運営会議（平成18年度第3回）が2月7日、福岡市内で開かれ、道守九州会議世話人や行政関係者ら約40人が集まり討議を行った。



県内に広がった熊本の道守花壇

に会員の問題意識収集や対処方策などの検討を行なっていくこととなった。  
また日本風景街道への取組みについては、玉川孝道副代表世話人や九州地方整備局から、今後の動向や推進体制について報告があった。

昨年10月の道守九州会議交流会

2006「みちづくし in 長崎」の報告を受け、体制や役割分担、運営ノウハウや情報の共有化などについて検討。今年、福岡県で開催する「みちづくし in 福岡（仮）」は、12月に福岡市で予定されている「Asia Car Expo 2007」と連携し12月8日（土）・9日（日）に実施する方針が確認され、今後



大分・別大国道のマイツリー活動

他県会議から「来年度の道守活動に取り入れていきたい」などの声があがった。  
一方、道守活動を持続、普及する上での様々な問題や課題も提起され、早期



各県から多彩な報告があった第3回運営会議

### 道守みやざき会議

第1回北部ブロック会議開催  
宮崎県の北部地域で活動する道守を対象とした「道守みやざき会議 第1回北部ブロック会議・意見交換会」が2月8日、「道の駅北浦」で開かれた。地域内での初の試みに、約50人の道守会員らが参加した。道守九州会議の森事務局長が「道守について」と題し講演。意見交換会では、各団体から道守活動の報告があった。この会議をきっかけとして、宮崎県北部地域の道守の組織化と活動推進を行っていく予定。



北部ブロック会議の参加者

### 地域の活動 大きな輪に 柳川・大川で議論と連携、道守清掃

おとなり同志 初の意見交換会



柳川・大川、初の意見交換会

福岡県内で道守活動を行う「道守柳川ネットワーク」と「道守大川ネ

ットワーク」が2月2日、意見交換会を行った。隣接する両市のネットワークが意見交換の場を持つのは初めての試み。両ネットワークの世話人や行政関係者ら約30人が参加し、互いの活動上の問題点やその解決法、今後の連携と道守活動への発展などについて、活発な議論を行った。



柳川市の道守清掃

等を行っていくことを確認した。参加者からは「たいへん参考になった」などの声が聞かれた。  
一斉清掃  
柳川630人  
大川400人  
2月24日、道守柳川ネットワークが今年度3回目の道守清掃活動を行った。伝統的なひな祭り「さげもんめぐり」の開催に合わせて行ったもの。「道路を美しくすることで、多くの観光客を気持ちよくお迎えたい」という思いに、35団体約630人が参加。午前8時から約1時間、ビニール袋を片手に市内観光

コースの草刈り、吸い殻や空き缶拾いに汗を流した。  
3月4日は道守大川ネットワークが3回目の一斉清掃を実施。14団体から約370人、個人30人が参加した。この日行われた「第25回古賀政男記念大川音楽祭」に合わせ、美しいまちで出場者や観客を迎えようといわれたもの。朝8時に大川市役所に集合し、ゴミ袋や金ばさみを手市内中心部、古賀政男記念館周辺、筑後川昇開橋などを約1時間かけて清掃した。



空き缶を集める大川市の参加者

### 広がった歩道に植樹と花植え 国道35号・佐世保市

2月6日、道守団体「35号花の会」のメンバー6人が、佐世保市内の歩道上の花壇に、街路樹（ゴールドクレスト4本）の植樹と花苗（ピオラ105本、ペペーローズ108本）の花植えを行った。国道35号の京町地下歩道閉塞による歩道拡幅工事の完成に合わせたもの。広がった歩道は利便性とともにより美しく向上した。



「35号花の会」のメンバー  
花苗の植え込みをする

### ワイワイ「みち」を語る くるま座だんぎ in 武雄

「安全なみち・安全なまちづくり」をテーマに道を語り合う座談会「くるま座だんぎ」（ロードネット佐賀主催）が1月20日、佐賀県武雄市で開催された。参加者は約100人。基調講演では「人と防災未来センター」（神戸市）の田中健一課長が阪神淡路大震災の記録を映像とともに紹介。武雄市の樋渡啓祐市長からは、ドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」でのロケのための道づくり、地元PRについて話した。さまざまな人々が交流するざっばらんな座談会となった。



くるま座だんぎの参加者

### 「もっと知ってもらいたい」 各地の道守だより、新号ラッシュ

2007年に入り、各地から「道守だより」の新号が次々と発表されています。地域内の道守会員の活動レポートなどが詳しく紹介されています。全ての道守だよりは、道守九州会議のホームページの各県会議のコーナーからもPDF形式でダウンロードできます。ぜひご覧ください。

道守大分会議  
道守大分会議通信 (vol.3)  
道守長崎会議  
ボランティア佐世保通信  
(vol.8, 9, 10)  
「小浜温泉57」だより  
(13, 14, 15号)  
道守かごしま会議  
おおすみ分科会誌  
(9, 10, 11号)  
※3月30日現在  
<http://www.michimori.com/>  
道守九州会議ホームページ



“はなみずき”の開花が待ち遠しい松原川通りの風景



## アイデアの花開く“はなみずき通り” 佐賀市・松原川通り

# わたしの好きな道

私の好きな道は、佐賀市内にある「松原川通り」。鍋島直茂公を祀る松原神社そばの遊歩道で、“はなみずき”と川の水面が織り成す、季節の風景が大好きだ。

多くの観光客が訪れる2〜3月の「佐賀城下ひなまつり」では、この道がメインストリートとなる。桃の花をあしらったぼんぼりが、いっそうの雰囲気を出し出す。祭りが終わるころ、松原川の水はたおやかに、春をつれてくるような流れに変わってくる。

春には“はなみずき”の白やピンクの花が、通りを鮮やかに彩る。地元の主婦たちが「この度は、はなみずきね」などと言いつつ、はなみずきがライトアップされる。京都・祇園の川沿いのような雰囲気は、何とも言えない癒やしの風景だ。

夏になると、はなみずきの成長した葉が、通りを歩き交う人々の日よけ帽子となる。木漏れ日と水面、そして風が織り成す落ち着いた風景は、心をホッと和ませてくれる。夏祭りには、ここで子どもたちと夕涼みしながら、花火を見物する。

「松原川通り」へは、私が働く設計事務所から歩いておよそ10分。仕事中にふと頭を休めたいと思ったとき、佐賀城のお堀沿いを通り、この道へ向かう。ウォーキングの有酸素運動と心の安らぎで、脳が活性化されるのだろうか。散策しながらプランを練ると、不思議と新しいアイデアがわいてくる。この道は、私に色々なことを気づかせてくれる先生のような存在だ。

私はいま、南蛮貿易で砂糖を運んだ長崎街道を「シユガロード」と名付けた道づくり、まちづくりに関わっている。街道沿いには、今も丸ポロや羊羹、黒棒、逸香口などのお菓子屋さんがいっつも点在している。いつかはドイツのロマンチック街道のようにしたい。そう思いながら、今日も“はなみずき通り”で新しいアイデアを練っている。

■プロフィール  
三原 ユキ江  
道守九州会議世話人、道守佐賀会議世話人、一級建築士及びタウンマネージャー。道づくり、まちづくりがライフワーク。NPO活気会、道を研究するロードネット佐賀にも所属。



# 私たちの道守活動

道に出て、道を見つめ、道の問題と向き合う。それは私たち自身の未来を考えること。歩いて楽しく、暮らして楽しい地域づくりのために、九州各地の道守会員が取り組むスタイルやアイデアなどもさまざまな活動を紹介します。

## 福岡 地域からの報告 道守ふくおか会議

**道守分科会設置、意見交換、交流会「みちづくしin福岡」へ連携と協働**  
道守ふくおか会議（井上信昭代表世話人）は、2005年3月の発足から丸2年を迎え、参加会員は136団体約1万3400人となりました。4回目の道守九州会議交流会として福岡市で12月に行われる「みちづくしin福岡（仮）」に向け、連携と協働を深めています。

## 道守分科会設置 道守と行政の連携、 協働を確認

福岡県幹線道路協議会が昨年12月26日に道守分科会を設置。



合同懇談会（12月26日）

また1月22日には道守ふくおか会議懇談会を行い、「みちづくしin福岡（仮）」、道守ふくおか花壇設置など今後の進め方の検討を行いました。



懇談会の様子（1月22日）

道守会員や関係行政機関から約80人が出席し、道守ふくおか会議との合同懇談会が行われました。今後の官民協働、連携や道守活動の推進などについて意見交換。発展的に議論していくことを確認しました。

## 道守ふくおか会議 交流会 報告・意見交換で 親睦深める

3月1日、道守ふくおか会議交流会が福岡市内で開かれ、県内で道守活動に関わる団体や行政関係者ら約80人が参加しました。井上代表世話人は「会員が増加し、運営に新しいアイデアが必要。道守会議を活発で意義あるものにしていきたい」とあいさつ。県内11地域からの活動報告、代表者12人による意見交換会なども行われました。日本風景街道の動きを紹介した榎木武・道守九州会議代表世話人からは「継続が必要」「できることをできる人が無理せず楽しくやる」「道守と行政、市民の三者が連携、協働しながらの仕組みづくり」という3つの活動キーワードが示されました。



意見交換を行う道守会員

## 福岡

### 北九州・黒崎地区美化推進協議会

### 「自分たちの手で町を美しく」

私たちは、地域の自治区会や婦人会、老人会、子ども会、各企業など30の団体が集まり、黒崎を「清潔で美しい安全なまち」にするために活動しています。昭和56年5月に発足し、今年で28年目。



毎月第2木曜は美化運動の日。朝10時、黒崎駅前にはビニール袋を片手に100〜150人が集合。笑顔輝く皆さんの頑張りと「自分たちの手で町を美しくしたい」という思いが広がって、黒崎周辺は非常に美しくなっています。

北九州の副都心・黒崎を全県にPRしたいと、昨年6月には協議会各団体に呼びかけ、集まった約80人が黒崎の「歩きやすさマップ」作りを目指して取り組みを始めました。「歴史編」「現代編」の2グループに分かれ、現地調査や参加者の意見を取り込む成果発表会を経て12月によりやく原稿が出来上がりました。マップの製本・完成を全員で楽しみにしています。（木村健一）



佐賀



株式会社百花園

風光明媚な唐津エリアで  
まずは周辺美化活動から



私たちが日ごろ生活している唐津エリアは玄海国定公園に指定されている非常に風光明媚な町として知られています。

来年築城400周年を迎える唐津城をはじめ、ほかの地域に誇れる風土

歴史、文化がいまも数多く残っています。

私たちは、今後も美しい城下町を守っていくため、まずは自らが環境問題に取り組んでいくことを考え、3年前から社員20人で会社周辺の清掃活動を開始。昨年は夏の暑い時期に、地区駐在員さんや町内の方々を含む25人で作業を行いました。

この活動を通して、社員一人ひとりの環境に対する意識高揚にもつながっていきたくと考えています。今後は、道守佐賀会議への入会をきっかけに、ボランティア活動にも積極的に参加していきたく思います。

(西島 治)



大分



菅生小学校

「ゴミ0大作戦」を展開  
ふるさとを愛する心はぐくむ



現在、会員80人。

18年度は、5月23日と11月7日に行いました。ゴミの多くはタバコの吸い殻・空き缶・ペットボトルで、参加者からは「吸い殻など大人のゴミがほとんど。大人として恥ずかしい」との声。

また、校区内のねぎの神社や七ツ森古墳の清掃活動は24年前から継続。ゴミに対する意識も高まり、子どもたちの心にボランティア精神や道をきれいにしようとする環境保全への意識、そして何よりもふるさとを愛する気持ちが育っています。「菅生地区、きれいにしようよ、どこよりも」。6年生が作った俳句です。(米光かずみ)



熊本



道守花壇「ふるふる」

植木インターチェンジ周辺を  
優しい花々で癒やしの空間に



鹿本郡植木町でオリジナルカフェとハンバーガーが自慢のカフェレストランを営んでいます。

道守くまもと会議の誘いを受けて、店舗前の国道沿い花壇の管理を始めたのが昨年3月。店が植木インターチェンジのすぐ前に位置するので、ドライバーの方々にも少しでも心を癒やしていただければという思いで始めました。

昼間は忙しいので、水やりや手入れはもっぱら早朝。花に元気がないときは、プロに相談するなどして、大切に育てています。手入は大変ですが、元気に育ってくれば苦労も吹き飛びます。普段1人での作業も、通りかかった知り合いが苗植えを手伝ってくれたりと、花壇がコミュニケーションにも一役かっています。

一人ひとりが自分の敷地内からちよつと踏み出して、周辺の道を美しくすることで、景観のよい道が広がっていけばよいなと思っています。(佐藤純二)



長崎



佐世保たばこ販売協同組合

佐世保を明るくきれいに  
清掃活動続けて44年



「佐世保市の景観を良くしたい」「たばこの吸い殻のポイ捨てを無くしたい」との思いで、44年前から独自のボランティア活動を会員30人で行っています。

佐世保市の国道35号四ヶ町アーケード付近約2kmで、毎月第2・4水曜に清掃活動を実施。日々の活動の結果、散乱していた空き缶や紙くずなどが、だんだんと少なくなってきたのを実感しています。

また、「いつもきれいにしてくれてありがとう」「頑張って」という地域の皆さんの心温まる声に励まされ、いつも楽しく活動しています。私たちの日々の活動を通じて、皆さんに何か感じ取ってもらい、少しでもポイ捨てが無くなればと願いながら、これからも活動を続けていきたいと思っています。(橋本良平)



宮崎



(財)宮崎県公園協会

地元団体やボランティアと協働し  
熱帯花木2000本を植栽



私たちは県立都市公園をはじめ、国道220号南バイパスなどの維持管理を長年手がけてきました。現在、日南海岸地域シーニックバイウェイ推進協議会の一員として活動しています。

3月には、「日南海岸きらめきライン」〜花で地域を結ぶ一斉活動〜の南郷地区・日南平山地区などの植栽植物の選定、花壇設計に初めて協力。宮崎市の青島地区では、地元7団体と地域のボランティア総勢110人で、ブーゲンビリア、ランタナなどの熱帯花木を中心とする2000本を国民宿舎青島跡地、青島参道商店街に植栽しました。今後は、地域の団体やボランティアと協働して、植栽活動を広げるとともに、維持管理をサポートして、青島地区の美化や地域の活性化に貢献できればと思っています。(吉田晋弥)



鹿児島



NPO法人エコリンク・アソシエーション

地域や風景街道と連携  
南薩の海岸美伝えたい



2001年設立、会員32人。南薩(薩摩半島南西部)の豊かな自然と人が共生する、新しい地域づくりを目指してさまざまな文化事業を行っています。大きなテーマとしているのは「東シナ海まると博物館」。美しいリアス式の海岸線が印象的なこの地域をじっくり感じてほしいと考え、地元農家の人たちと連携した民泊型の教育旅行を提案しています。

また、川辺郡川辺町の町の駅では、地域のネットワークづくりに協力。そのひとつとして、乗馬の駅を開設しました。昨年9月から、「かわなべ森林馬事公苑」の運営にも携わり、乗馬体験を中心に、周囲の豊かな森を生かした文化・自然の体験活動を行っています。

今後は、国道226号沿いの木の枝切りや植栽をさらに継続。日本風景街道と連携して、東シナ海の景観づくりに取り組んでいきます。(下津公一郎)



### 植栽400年 人の行き来が育てた白砂青松

佐賀県唐津市の虹の松原や呼子などには、年間約780万人の観光客が訪れる。国の特別名勝でもある虹の松原はかつて「二里の松原」と呼ばれた。虹型の円弧の砂浜、その総延長は二里（8km）。浜辺に沿う松林は約5km。植栽から400年、老若百万本のクロマツが続く。「白砂青松は里浜の原風景。人々はここを使い、松原は暮らしを支え来訪者を迎えた。使い続けたから残った」と地元郷土史家・中里紀元さん（75）は言う。松籟に誘われ松原の過去・現在・未来を訪ねよう。



郷土史家の中里さん  
原は暮らしを支え来訪者を迎えた。使い続けたから残った」と地元郷土史家・中里紀元さん（75）は言う。松籟に誘われ松原の過去・現在・未来を訪ねよう。

### だれもが大事にした松林 常緑の秘密は松葉かき

「自然や環境の多くは人々の営みで守られ風景になり歴史となる。虹の松原は典型」と中里さんの案内に力がこもった。中を貫く道は県道347号（旧国道202号）、まっすぐな2車線に松が枝迫る。ガードレールは木製で、随所に切れ目があつて松原にすぐ入れれる。古い国境石「従是東對州領」や山頭火句碑「松に腰掛けて松を観る」、万葉歌碑など古人や文人の足跡に出合う。芝生より柔らかな歩きの感触は、この辺りがかつて砂丘だったからだ。山側の古い砂丘の間は湿地だった。松浦瀉と呼ばれ万葉の時代から歌に詠まれた。松浦瀉を水田にするため防風・



従是東對州領  
松を観る、  
万葉歌碑など  
古人や文人の  
足跡に出合う。

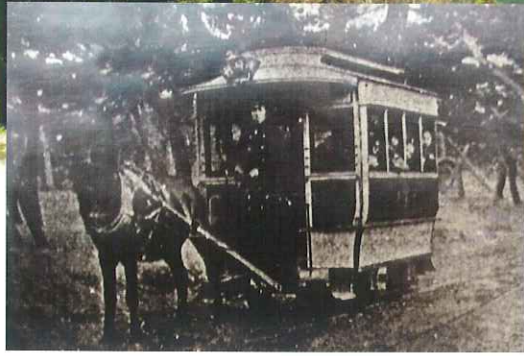
通り、風光明媚を愛した文人たち、例えば司馬江漢が、頼山陽が行き交い、いつしか二里の松原の二里を虹と洒落、虹の古語を使って寛林と呼び始めた。「虹の松原」の由来とされる。

松原の道は細く、領民たちの生活・作業道でもあったが、時に結集・決起の場となる。明和8年（1771）

の虹の松原一揆では農民2万5千余人が松原の国境一帯に結集。林立の松を盾に身を守り、隣地の幕領に失政を伝える作戦は効を奏し要求が通ったが、代償に指導者4人が松原の一隅で処刑された。一揆顕彰碑が松原内に建ったのは3年前。建立に尽力した中里さんは「唐津は歴史が古く観光資源に恵まれ、道をテーマにした取り組みは遅れた」という。



一揆顕彰碑



●当時の鉄道馬車の写真

### 松原七不思議の危機から 行動へ、協働へ

今も松の下は変化のさ中。「大型車が通れなくなつて客は10分に1に減った」と茶店の主人。反対

明治33年、松原の道に馬が客車を引く「馬鉄」が登場、茶屋や松露饅頭や松原おこしが名物になり、外国人向けのホテルやダンス場も開館。江戸時代以上に文化人たちがここを訪れ作品を残した。白秋、山頭火、花袋、蒲原有明らだ。

# 唐津・虹の松原と松の道

九州各地で始まった道守活動は今、新しいうねりへとつながり始めています。道の清掃や植栽、歴史や文化の継承が、美しい道の風景を醸し出す。そこにさまざまな地域資源が響き逢い、新しい街道風景を育てています。創刊4年目の道守通信は「交響の道をいく・新街道風景」を連載します。

## 交響の道をいく 新街道風景

### 玄界灘風景街道 (福岡市、前原市、二丈町、唐津市)



玄界灘沿岸は古代から大陸との交流の舞台であり、歴史文化、自然景観など資源が多数。福岡市中心部の路地を舞台とする「福岡ゾーン」と唐津市・糸島沿岸部の「海浜ゾーン」の2つに分け魅力を発信する。今回は唐津・呼子ルートを訪ねた。

防砂・防潮の松を植えたのは、長崎奉行のときにキリスト教徒でありながら二十六聖人の処刑を行った唐津初代藩主、キリシタン大名・寺沢志摩守広高。着手は、関ヶ原の合戦直後の1601、2年とされる。

寺沢は「中に大事な松が7本ある。切れば死罪」と厳しく臨んだが、不注意で松を切った農民を「大事な松ではない」と許した。農民は松葉かきをし、集めた松葉を燃料に、城下で売って生計の足しにもできた。



佐賀大の田中教授  
この松葉かきこそが松原長寿の秘訣。砂地の腐葉土化を防ぐ。虹の松原近くの佐賀大学海浜台地生物研究センター

の教授で「虹の松原七不思議の会」代表でもある田中明さんは、全国各地の松原保存運動に招かれるたびに松葉かきの秘密を力説している。

### 松の下に歴史あり 一揆や刑場、馬車鉄道、ダンス場

松原ができる前と唐津藩主は参勤交代でここを



●銘菓・松原おこしの店主

に松原内で販売30年のからつバーガーの人気が一気に上昇、列ができるほど。環境保護の高まりで「虹の松原七不思議の会」が生まれたのは7年前。蛇がいない、井戸水は真水など七不思議が変化し始め、七不思議の解明と警告・啓蒙を行う。

いま、郷土史家の中里さんや七不思議の会の田中教授、道守グループなどが「玄界灘風景街道」に取り組み始めた。計画づくりに携わる唐津市役所・企画政策課の若手スタッフ夏井康恵さんは「道は文化の編集装置、それを実感しています」と話す。（滝平道郎）

### 道と環境通して 唐津の良さ伝えたい

唐津市を自然豊かな、安心安全のまちにしよう

と、昨年春に設立。旧佐賀銀行前の打ち水キャン（左）と唐津市役所のペンションやキャンドルナ（右）夏井さん（右）イト、虹の松原での清掃活動、里浜植樹などをやってきました。

また、「虹の松原七不思議の会」と協働し、子どもたちと松原について学習。松原で松露ができるように松葉かきをしたり、松原エコツアーボランティアガイドを務めたりしています。環境だけでなく、道を通して人々の生活・文化・歴史を一緒に考え、唐津の良さや人の良さを伝えていきたいです。



代表の岩本真一さん（左）と唐津市役所の夏井さん（右）



● 松原内の県道347号（旧国道202号）



● 砂浜の潮干狩り



● 築城400年の唐津城



● 呼子大橋と弁天遊歩道



# 九州エリア限定「道路の走りやすさナビ」WEB版を公開

道路の「走りやすさ」にランクを付けて色分けした「道路の走りやすさマップ」。これを利用した「道路の走りやすさマップ対応カーナビ」の実用化（平成20年度予定）を目指し、国土技術政策総合研究所と民間企業では、共同研究を行っています。そこで、一般ユーザーの意見をカーナビ開発へ反映させるため、WEB版経路検索システム「道路の走りやすさナビ」を九州エリア限定で公開しました。



九州幹線道路調査事務所HP (きゅうかんウェブ) <http://www.qsr.mlit.go.jp/kyukan/>

## 3段階の「走りやすさ」で経路検索

「道路の走りやすさナビ」は「走りやすさ」を3段階（走りやすい／ふつう／走りにくい）から選択して経路を検索できる日本初のシステムです。さらに検索結果では、経路の走行画像（静止画）を見ることができます。

## 観光情報満載！ ※九州観光推進機構推奨

「道路の走りやすさナビ」は、2007年4月より上記URLから利用できます。インターネットにアクセスすれば、いつでも、どこでも、どなたでもご利用いただけます。ドライブや旅行の前にぜひ活用ください。



▲走りやすさを3段階から選択



▲現地の走行画像を見て、走りやすさを確認

走りやすさ区分を

「走りやすい」「ふつう」「走りにくい」の3グループから選択

- 走りやすさ条件に最適なルートを表示
- 走りやすさを走行画像（静止画）で実感できる
- ルート沿いの道の駅／とるば／観光地／事故危険箇所を表示

※上記画像はイメージです。実際と異なる場合があります。

上記についてのお問い合わせ先は

国土交通省九州地方整備局 道路計画第二課 TEL.092-471-6331 (代表)、092-476-3530 (直通)  
国土交通省九州幹線道路調査事務所 調査課 TEL.092-672-7311

● 道路についてのご意見・ご相談を受け付けています

九州地方整備局「道の相談室」 ☎ 0120-106-497 ■ 092-476-3514 [24時間 毎日受付]  
E-mail [m-soudan@qsr.mlit.go.jp](mailto:m-soudan@qsr.mlit.go.jp) HP <http://www.qsr.mlit.go.jp>

# 海外道事情



歩行者専用道路「花通り」で楽しむ若者たち



クリチバ市のシンボルの存在として、市民に親しまれる円筒形のバス停留所「チューブ」



幹線道路に沿って建設された高層ビル群。周囲の地域にはビルは建設できず、住宅や緑地帯が広がる

ブラジル連邦共和国 (通称ブラジル): 首都はブラジリア。南アメリカ大陸最大の国土 (約851万km<sup>2</sup>) を持ち、人口は約1億8410万人 (世界第5位・2004年)。公用語はポルトガル語。

クリチバ市: ブラジル南部で最大の都市、パラナ州の州都。現在の人口は約170万人。標高約940mに位置。17世紀にパラナ地方に築かれた植民都市を起源とする。



## 歩行者専用道路は、幅40メートル！ 「人間中心の計画都市」クリチバ市

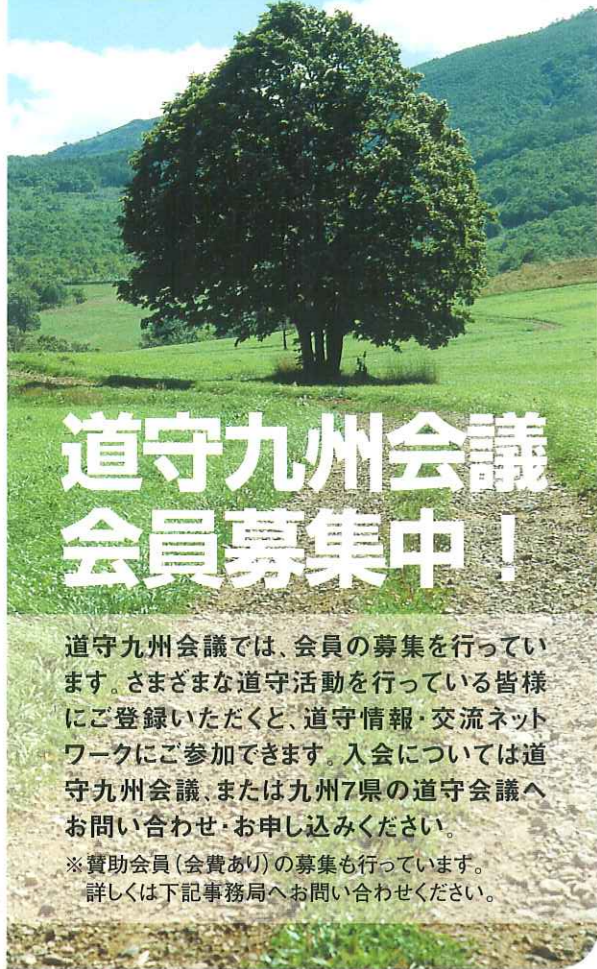
ベンチでくつろぐカップルやオープンカフェで憩う家族連れ、大道芸を楽しむ人々。昨年、視察で訪ねたブラジル・クリチバ市の都心にある「11月15日通り」は、平日の昼間なのに、大勢の人でにぎわっていた。「花通り」の愛称で親しまれるこの通りは、幅約40メートルの歩行者専用道路。石畳の通りに沿って、しやれたデザインの街灯が並ぶ。周囲は商業ビルがひしめく市内一番の繁華街だ。クリチバ市が、花通りから車を締め出したのは1972年。夜間のごみ収集車や商品を運ぶ業務用車両以外、すべての車両が進入禁止。市が策定したマスタープランの先駆的取り組みが都心の道路の「歩行者天国」実現であり、その第1号が花通りだった。閉鎖された道路には、通りの美観を向上させ、車両の進入を防止するため、あちこちに花壇を配置。「花通り」の名称の由来となった。クリチバ市の街づくりには、多くの日系人が携わっている。元クリチバ都市計画研究所 (I.P.P.U.C) 所長のルイス・ハヤカワ氏を訪ねた。ハヤカワ氏によると、市は都心から放射線状に延びる5本の幹線道路に沿って、都市に「軸」を設定。幹線道路から離れた地域では建物の容積率を厳しく規制し、高層ビル建設を制限。



その結果、幹線道沿線のビル街と、低層の住宅街や緑地がくっきり分離。交通渋滞や事故の危険が少ない住環境と、利便性の高いビジネス・商業空間を同時に実現した。一方、都心では花通りを中心に、複数の歩行者専用道路をネットワーク化。歩いて楽しい、歩行者が主人公の街を整備した。「街づくりは、人間がすべての標準になる」。ハヤカワ氏はギリシャ哲学の一文を引用して、クリチバ市の取り組みをこう表現した。都心から西側にあるテレビ塔に上った。幹線道路沿いにだけ整然と集まった高層ビル街。計画的な開発に成功した都市の姿が、そこにあった。翻って日本は…、人間中心の都市計画の大切さを痛感した。



にわか よしみつ 庭木香充  
西日本新聞社地域報道センター記者。大牟田支局、地域報道センター、社会部などを経て2006年から現職。



## 道守九州会議 会員募集中!

道守九州会議では、会員の募集を行っています。さまざまな道守活動を行っている皆様にご登録いただくと、道守情報・交流ネットワークにご参加できます。入会については道守九州会議、または九州7県の道守会議へお問い合わせ・お申し込みください。  
※賛助会員(会費あり)の募集も行っています。詳しくは下記事務局へお問い合わせください。

### ●入会申し込み・お問い合わせ

(社)九州地方計画協会内  
「道守九州会議」事務局  
〒812-0011福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533  
ホームページもご覧ください。申し込みも可能です  
道守HP <http://www.michimori.com>  
e-mail [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

### 道守通信 編集後記

道守九州会議も発足して4年目。昨年の長崎での交流会も九州各地から多くの会員のご参加をいただき道守会員ネットワークの広がりを実感しました。この「道守通信」も13号、4旬目をスタートした訳です。これまでの活動を振り返り、これからの活動に繋げていく時期を迎えたのではないのでしょうか。各地で風景街道の動きも活発になってきたようだし、道守からまちづくり、さらに人づくりへと境界を越えた交流も始まっています。ますます充実した誌面づくりを心がけたいと思います。(編集委員・阿野史子/道守長崎会議代表世話人)

## あなたも九州の道を考え、守ってみませんか?

### 道守とは

「道」を舞台に、あるいはテーマにさまざまな活動を行っている人々を私たちは「道守」と名付け、その行動を「道守活動」と呼んでいます。「道守九州会議」には、九州各地で道守活動に取り組むNPOや市民団体、企業、研究機関、行政、個人等、どなたでも自由に参加できます。



道路美化と愛護を訴える  
顕徳町デウスクラブ(大分市)

### 広げよう道守の輪

九州各地の多くの方々から道守を舞台に活動を繰り広げています。地道でひたむきな活動ですが、地域の仲間、学校の友達、会社の同僚、市民団体、個人の活動などが、地域に共感と感動を与えています。



市のシンボルが咲く「バラ通り」  
礼元商工親睦会(鹿児島県鹿屋市)

### 道守活動の例

道端の清掃・美化、空カンやゴミ回収、草木や樹木の育成・手入れ、危険箇所の点検・提言、標識類の点検・提言、モニタリング(監視・通報)、安全な道への調査・研究・実践、道の歴史や文化の発掘・継承・活用など



汗と団らんで美しい道づくり  
環境美化を考える会(長崎県西海市)

## 道守九州会議からのお知らせ

**道守九州会議交流会2007「みちづくし in 福岡(仮)」開催**  
12月8日(土)9日(日)の2日間、道守九州会議交流会2007「みちづくし in 福岡(仮)」の開催を予定しています。今後、実行委員会が企画を進め、道守通信等で詳細を発表していきます。  
**九州とるば**  
**第3回フォトコンテスト**  
グランプリは坂下さん(宮崎県)  
「九州とるば」の第3回フォトコンテストには、期間中(昨年3月1日〜2007年1月31日)写真点数249作品(駐車場数

147)の投稿がありました。3月13日に最終審査が行われ、坂下裕幸さんの「雨の球磨川」がグランプリに選ばれました。受賞作品の詳細は、九州とるばホームページで紹介しています。  
<http://www.torupa.com>  
<http://kyushu.torupa.jp/>  
最終審査の様子



## 道守たちのトピックス

### 地下歩道がギャラリーに変身

地下歩道に児童の絵を飾って「ギャラリー」に変身させる試みが昨年12月17日、福岡県春日市で行われた。春日市春日の「春日地下歩道」は県道31号下の幅2m、長さ60m。安心して通行できる地下歩道にしようと、春日地区自治会が企画した。

### 2年かけて長崎街道を踏破

長崎街道を歩き継ぐウオーキングに2年前から挑んでいた長崎市の「長崎街道ネットワークの会」が3月4日、ゴール地点の長崎市の出島にたどり着いた。参加した約90人の会員らは、長崎市矢上町から同市中心部まで約12kmを約6時間半かけて踏破した。

### 奉仕団体、国交省、HTBが道路美化協定締結

長崎国際大(佐世保市)の学生や地域住民などをつくるボランティア団体「NIUコミュニティ交流会」と国土交通省長崎河川国道事務所、大型リゾー卜施設ハウステンボス(HTB)は昨年12月13日、三者が協力して道路の美化清掃活動することを定めた協定「ボランティアサポートプログラム」を締結した。

### 「街道茶屋」オープンでタコと二人三脚

天草市有明町の有明海沿岸を走る「タコ街道」(国道324号)にこのほど、「街道茶屋」がオープンした。タコと二人三脚

人三脚「で地域づくりに励む同町の新名所になりそうだ。景色を楽しむだけでなく、実際にタコを味わってほしい」と、有明町商工会が誕生させた。

### 35年かけ広域農道全面開通

県営広域農道整備事業の最終区間となる大野川中流地区の豊後大野市千歳町一同市緒方町間(約28km)が完成し昨年12月14日、緒方町上冬原で全面開通式があった。1971年に着工し全面開通までに35年間かかった。

### 1時間でゴミ15袋回収

佐世保市八幡町の佐世保北中学校の3年生113人が1月15日、同校周辺でボランティア清掃を行った。約1時間の清掃活動で回収したゴミは、ゴミ袋(45L)15個分にもなった。

### 開通記念でハイウェイコース楽しむ

南九州西回り自動車道の串木野―薩摩川内都インターチェンジ(IC)間が開通するのに合わせて2月25日、開通区間を歩くなどの記念イベントが開かれた。参加者は串木野ICへ向かう途中で折り返すハイウェイのコースを楽しんだ。

### ゴミ拾いで奉仕・環境・リサイクルの理解深める

伊万里養護学校高等部の生徒27人が昨年12月8日、学校周辺のゴミ拾いを通じて、奉仕活動や環境、リサイクルなどへの理解を深める発表会を開いた。

発表会に先駆け、12月5、6日に計2時間、道路沿いを清掃した。

### プラントナー350個で県道飾る

来訪者を花で迎えたいという思いで、久留米市の森部中山間事業世話人4人を中心に地元住民が、県道151号沿い2kmにわたってプラントナー350個に植えたパンジーが咲き、道行く人の目を楽しませている。県道から500m北に下った通称・お鷹道沿い

に咲く5400本の日本スイセンも同事業の取り組みの1つ。

### 「街道と宿場町」発刊

(財)アクロス福岡は県内の街道と宿場町を網羅した「街道と宿場町」を発行した。県内の地域文化、伝統文化の掘り起こしや保存活動の促進を目的にふるさとの文化を幅広く紹介するシリーズ第1弾。



## 道守 人物伝

### 「美化の旅」で九州1周



福岡県大牟田市小浜町  
中林朗夫さん(32歳)

昨年9月20日に道端の空き缶などを拾いながら、徒歩で九州を1周する「美化の旅」に出発。12月11日、大牟田市役所にゴールした。出発して約1350kmを踏破、5000個以上の空き缶を拾った。  
旅の趣旨に賛同して集まった学生ら

7人とともに最後の2kmを歩いた。荷押し車にくくりつけた「ゴミを拾ってください。ゴミをもらってくれませんか」と書いたのぼり旗は、長旅ですっかり色あせた。  
途中、ゴミの引き取り手が見つからず途方に暮れたこともあったが、必ず助けてくれる人が現れたという。

2年前には徒歩で日本を1周。そのときに、木を植えながら旅をしている若者3人と出会い、ゴミを拾うことを思いついた。願いは「多くの人に自分の活動を知ってもらいたい。1人が100個のゴミを拾うより、1000人が1人1個ずつ拾うほうが効果がある」。現在、今回の旅をまとめた本を執筆中だ。



**Po** 第2回とるばフォトコンテスト 優秀賞作品  
「早春の池田湖」 坂下裕幸氏 (宮崎県)

<フォトスポット> 池田湖パラダイス駐車場 (鹿児島県指宿市池田湖) から

早春の時期は、開聞岳を背景にした撮影は逆光状態となるので注意が必要。



広報誌「道守通信」春号  
平成19年3月30日発行

■発行 「道守九州会議」

■事務局 (社)九州地方計画協会内

〒812-0011 福岡市博多区博多駅前1丁目19番3号  
TEL.092-473-1057(代) FAX.092-475-0533

「道守」ホームページ <http://www.michimori.com/>

e-mail アドレス [michimori@michimori.com](mailto:michimori@michimori.com)

定価 300円 (消費税を含む)